

# 長崎県のダムについて

## ●過去の災害

長崎県では、これまで昭和32年の諫早大水害、昭和42年の西日本水害、昭和57年の長崎大水害など幾多の**大水害**に見舞われ、また、昭和30年代後半から40年代にかけての**長崎砂漠**と呼ばれた水不足や、記憶に新しい平成6年から7年にかけての**大渇水**などの**水源不足**にも悩まされてきました。



昭和32年 諫早大水害

昭和42年 西日本水害

昭和57年 長崎大水害

平成6年渇水状況

## ●ダムに頼らざるを得ない長崎県の地勢条件

これらは、長崎県の河川がその地形的特徴である**流域が小さく、急流河川**であり、**水害を受けやすい**と同時に、**水を貯める能力が低い**ということが一因となっており、**ダムに頼らざるを得ない地勢条件**にあります。

## ●河川改修とダムの最適組み合わせによる治水・利水対策

そのため、県では、再度災害が防止されるよう、各河川の重要度に応じた計画規模で**河川改修とダムの最適な組み合わせにより治水対策および利水対策を進めてきており**、昭和30年代の大村市の萱瀬ダムをはじめとする**多目的ダム**や、波佐見町の野々川ダムをはじめとする**治水ダム**を数多く建設し、**これまでに35ダムが完成**しています。

このダムの数は、**国土交通省所管の県が管理するダムの数としては日本一**となっており、このことから本県の地形条件の特徴が表れています。

県民の安全・安心な暮らしを確保するため、現在、**県営ダム事業として長崎市の浦上ダム（長崎水害緊急ダム事業）と川棚町の石木ダムの2ダム、国営ダム事業としては諫早市の本明川ダムの整備が進められています。**

